

アニバーサリー休暇



総務部 総務課
主任

高峰 七奈 さん

企業プロフィール

- 事業内容：製菓・製パン用チョコレート類、チョコレート加工品の製造
- 従業員数：437名(2014年9月30日現在)
- 年次有給休暇の取得率：24.7%(正社員)、33.7%(全従業員)
- 年間休日数：125日
- URL：<http://www.tokyo-food.com/>

“いきいきと働き続けられる職場に” その想いを実現する休暇制度

実践！

こうすればできる！
こうすればのびる！

- ① 仕事の実情に合わせ柔軟に運用
- ② 部署内で取得状況を共有し調整
- ③ 総務部門が全社的に運用を管理

誕生月に1日休める「アニバーサリー休暇」

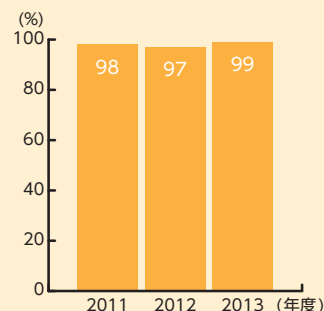
当社は業務用チョコレートの製造会社です。製造工程での繊細な手作業、商品開発のアイデアなど業務全般で“女性が活躍できる”職場で、全従業員約430名の半分以上が女性です。女性のうち正社員は約80名ですが、3分の1以上が“ママさん社員”。出産や育児で職場を離れた女性が復職しやすい環境を整えてきた結果です。

年次有給休暇は入社半年以降、段階的に付与し、勤続6年6カ月以上で年間20日となりますが、多忙な従業員も多く、全てを消化することは困難です。そのため当該年度中に消化されずに残った年次有給休暇については、翌1年間に限り繰り越せるようにしています。それでも実際は、休日出勤分の代休消化が優先となり、取得率がなかなか上がりません。そこで、取得率向上のために2008年に導入したのが「アニバーサリー休暇」です。

柔軟な運用と業務の調整で取得率100%へ

「アニバーサリー休暇」は、年次有給休暇とその繰り越し分の中から取得する休暇で、当初は誕生月に1日、休める制度でした。しかし誕生月に限定した制度では、「冬場の繁忙期に誕生日を迎える人は休みづらい」といった声があがり、2012年度からは誕生月に限定せず休みを取れるようにしました。運用を柔軟にし、各部署で上長が社員の取得日を調整し、さらに総務部が全社的な状況を把握し細かく運用していることもあって、ここ数年は「アニバーサリー休暇」の取得率はほぼ100%です。“パパさん社員”で、子どもの入園式や運動会、家族の記念日などに使う人が増えています。取得条件は勤続1年以上の正社員で、取得月の前月20日までに申請すれば取得できます。

■「アニバーサリー休暇」取得状況



出産への立会いや介護も視野に休暇を検討

女性社員が熟練した技術やノウハウを身に付けても、出産や育児で職場を離れると復職が困難ということをよく耳にします。当社は、そこを変えたかったので、2010年には「育児と仕事の両立を応援する委員会（通称：イクエン委員会）」を社内に設置し、男女問わず育児と仕事を両立する働き方を考え、意見を出し、改善を進めています。アニバーサリー休暇の運用を変えたのもイクエン委員会からの提案です。今後は、「配偶者出産立会い休暇」の制度化、介護と仕事との両立を考えた休暇も検討しています。年次有給休暇の取得促進だけが目的ではなく、「いきいきと働き続けられる職場」を作りたい。それが当社の休暇制度の根底にあるものです。



制度活用事例

「アニバーサリー休暇」で妻の誕生日祝い

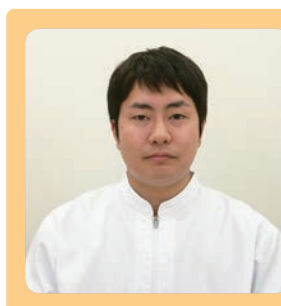
私が入社してすぐの頃、休日でもない日に先輩が「アニバーサリー休暇」を使って休んでいるのを知って、「平日に休みが取れるなんて羨ましい」と思ったことを覚えています。その頃から6年が経ちますが「アニバーサリー休暇」の使い方は、年ごとに変わってきたように思います。2013年度は3月に、妻の誕生日を祝うために利用し、久しぶりに二人きりでゆっくり食事に行きました。世の中の多くの男性は、自分が働いている職場で「妻の誕生日なので休みます」とは言いだしにくいでしょう。年次有給休暇なら本来、理由は説明しなくてもいいのですが、やはり、「休みとって何するの?」と尋ねられることもあります。その点、「アニバーサリー休暇」であれば、自分、子ども、配偶者、両親のために休みをとる人も多いので、遠慮もなく、堂々と「妻の誕生日のため」と休みを申請できました。正直に言って、通常の年次有給休暇で申請しなくてはならないというのであれば、休みを取るのを躊躇したかもしれません。

“自分のため”から“家族のため”へ

以前を振り返ると、独身の頃は自分のためだけに、この休暇を使っていました。例えばふらっと遊びに出かけてみたり、平日にしかできない役所の手続きのために使ってみたり。その後、結婚が決まってからは結婚式の準備、子どもが生まれてからは子育てを手伝うなど、だんだん自分以外の家族のために使うようになってしま

た。2011年は、子どもの保育園の入園式に参加しました。妻は仕事の都合で参加できず私だけでしたが、子どもの成長の節目に立ち合えてうれしかったです。社内でも共働きの家庭では、育児や家事などをお互いに分担し、フォローしあうためにこの休暇を利用している人も多いようです。

「アニバーサリー休暇」の使い道は人それぞれで異なりますし、会社としての制約もありません。ただ、これまで自分が利用してきた経緯を振り返ると、やはり子どもや配偶者、両親など家族のために使うほうが、休みとして意義深いと感じます。多くの人が子育てや家族との過ごし方、そして仕事とのバランスに悩んでいると思います。子育て、家族、仕事のバランスを取るということは、すなわち“時間の調整”ではないでしょうか。私の場合は、「アニバーサリー休暇」を取得することで、子どもや妻と過ごす時間を作れました。小さなことではあるのですが、そういった調整を重ねることで、やがてはしっかりとバランスが保たれるようになるのではと感じています。



総務部 総務課

石川 和行 さん